

「横浜こどもスポーツ記者」参加者および撮影写真紹介



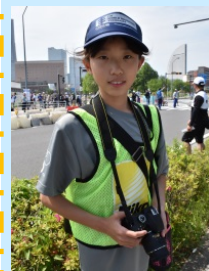
金子 佑実 (かねこ ゆうみ) さん

「わあ、はやかったなあ」。バイクが集団で通る時は、波のような音がしてすごい迫力です。その様子を、本格的な一眼レフカメラを使って撮影するのはわくわくしました。連写で撮った写真を見ると、パラパラまんがのようになっておもしろかったです。カメラマンの仕事は、ハードだけどやりがいがある仕事だなと思いました。



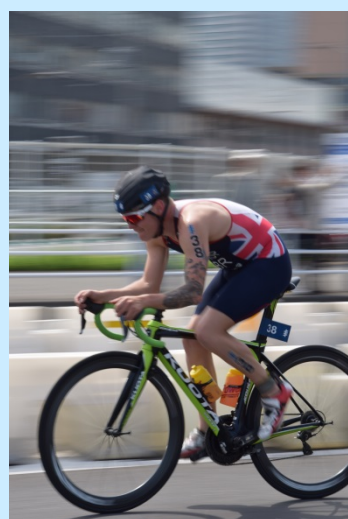
千竈 心 (ちかま しん) さん

一眼レフカメラを使うと、選手がブレることなく、キレイにとることができました。ファインダーだけを見ていると、選手が通りすぎる時、あせってとれないことがあったので、先に目で確認しながら、とる準備をしている時に、どんなとり方をしようか考えました。なにより同じことが好きな人と一緒にとるのでとても楽しかったです。



田 樹莉 (でん じゅり) さん

バイク（自転車）は、自分の目の前をビュンビュンと走っていくところがかっこよかったです。最後のランでは、きれいな写真はとれませんでしたけど、ゴールのシーンが見えました。女子の3位に上田藍選手が入ったのを近くで見ることができてうれしかったです。私はもっと上田藍選手を応援したくなりました。



林 希望 (はやし のぞみ) さん

ぼくは、以前もこどもスポーツ記者を体験しました。その時のバスケットボールはシャッターチャンスがたくさんあったけど、今回体験したトライアスロンは待つ時間の方が長くてシャッターチャンスはとても短かったです。同じスポーツのカメラマンでも、スポーツによって変わることが色々あるのだとわかりました。



原田 ともひろ (はらだ ともひろ) さん

一番記憶に残ったのは、日本の上田藍選手の活躍です。僕が撮影したどの写真も、上田選手はものすごく気合が入った顔をしていました。3位という結果やレース運び、ほかの選手と協力してバイクの順位を上げたことなどもすごいと思いました。あと、Nikonのカメラもとても使いやすくて、2,000枚以上も写真を撮ってしまいました。



山口 凜 (やまぐち りん) さん

取材してすごいと感じたことが2つあります。1つ目は体力です。休みなしでスイム・バイク・ランをするのはすごく体力が必要だと思います。2つ目は迫力です。自転車の時はスピードで風がくるのでびっくりしました。そんな選手達の様子を、私はカメラにおさめました。一眼レフで写真を撮ったのは初めてでしたが、楽しい経験ができてよかったです。



2016 世界トライアスロンシリーズ横浜大会キッズプロジェクト「横浜こどもスポーツ記者」は、株式会社ニコンイメージングジャパンの協力により実施されました。

